第７回県政ひざづめ談議結果概要

〇実施日時：平成 22 年 8 月 25 日 14:30～
〇開催場所：上野原市役所　２階防災会議室
〇対話グループ：上野原市新鮮野菜生産者の会の皆さん

〇司会

それではお待たせいたしました。

知事が到着いたしましたので、まず横内知事からあいさつをさせていただきます。

〇知事

皆さん、こんにちは。

今日はそれぞれにお忙しいと思います。そういう中、お集まりをいただきまして、ありがとうございました。

今日は、この上野原市で農業、野菜の栽培をやって、直売所などに卸している皆さん方にお集まりをいただいたというように聞いております。

上野原市の場合には、談合坂のサービスエリアの直売所が全国的にも有名になってきたわけでありまして、また直売所の数も県下でも北杜市に次いで多い施設があるということでありまして、大変この地域で野菜を作って、そして直売所で販売をするということが盛んなところでございます。

皆さん方それぞれ工夫を凝らしながら、いいものをお作りいただいているというように思うわけであります。

県としても、こういう直売所を通じた、この農産物の販売の拡大というのは、大変に大事なことだというように思っておりまして、これからもまだまだ可能性がある分野であり、増やしていきたいと思っているところであります。

しかし、そうはいいましても、皆さま方、日常のお仕事をしていく上で、いろいろな課題・問題点を抱えているだろうというように思いますので、今日はぜひそんなお話を聞かせていただければありがたいというように思います。

この、ひざづめ談議というのは、ざっくばらんに普段お考えになっていることを、何でもお話を伺うという会でありますので、どうか遠慮なく、普段、いろいろと感じておられる問題点だとか、あるいは県の行政に対する要望とか、そういうことを話していただければありがたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、どうもよろしくお願いいたします。

〇司会

それでは続きまして、本日同席をしております、県と市の担当者を紹介させていただきます。

農産物の消費拡大ですとか、地産地消の推進などを担当しております、樋川果樹食品流通課長です。

〇果樹食品流通課長

樋川でございます。よろしくお願いします。

○司会

続きまして、上野原市の農業振興を担当しております、清水建設経済部長です。

○建設経済部長

清水です。よろしくお願いします。

○司会

それでは早速、意見交換に入らせていただきますけれども、まず生産者の会の会長さんから、若干の会の説明をお願いします。

○参加者

知事さんにおかれましては、この残暑厳しい中を上野原市にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

私たち、ここにおられますのは、上野原新鮮野菜生産者の会の会員の皆さんでございます。

私ども、市の経済課長をはじめ事務局のリーダーとともに、このセンタープラザにおきまして、毎週土曜日に朝市を行っております。

市民の皆さまには大変評判良く、そして談合坂サービスエリアの上り線におきましては、２００名の会員がおります。その方々が毎日、出荷し、販売しております。

また、山梨県において、上野原市は都内からの表玄関ということで、私たちも都内にも出荷しております。

例えば、帝国ホテル、新宿高野などなどいろいろありますが、その料理事情を見ますと、上野原の野菜は非常においしいと、このような説も伺っております。

しかしながら、この上野原市は御前の山が高く、北には桂川、鶴川があります。その影響もあるのかなという話も伺っております。

したがいまして、知事さんにおかれましても、この上野原市の農業、また工業には温かい光を与えてくれたならば、私ども大変喜ぶ次第でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○知事

ここに出ているものをお持ちいただいたわけですが、こういうものを直売所へ出荷しているということですね。

これはなんですか。

○参加者

これはウコンの花です。

○知事

ウコンの花、なるほど。花ですか、これは。

○参加者

花です。

○知事

黄色いウコンになるのは、どこですか。

○参加者

根があるんですよね。

○知事

花は花として販売しているということですか。

○参加者

そうですね。

○知事

なるほどね。

これは、葉物のモロヘイヤね。

○参加者

これは帝国ホテルへ出しているんです。

○知事

帝国ホテルへ。これはサラダ用にね。

○参加者

そうです。

○知事

なるほど。これはハーブですよね。

○参加者

ハーブです。これはルッコラ。これは今でも食べられますよ。

ゴマの味がすると思います。

○知事

多少しますね。これはちょっと苦味があっていいですね。

○参加者

これは、帝国ホテルへ行くと、このぐらいの皿へ肉とパンとこれを乗せて、もう２千円も取られるから。

○知事

帝国ホテルとか新宿高野とかとの販路をつくったのは、どうやってつくったんですか。誰かの紹介で・・

○参加者

仲間がいて、その人が料理をしていて、やってみないかということで・・

○知事

なるほど、そうですか。

それはよかったですね。新宿高野は、これを売っているということですか。それとも料理に使っているんですか。

○参加者

料理です。

○知事

そうですか。これなんか、うまそうですね。これはあまり辛くないでしょう。

焼いて食うとうまいですよね、これ。

そうですか。これはキュウリですね。何となくいいキュウリだね。

○参加者

それはこの上野原の在来のキュウリです。

○知事

在来の野菜ですか。

○参加者

もう昔からこの地区にあるというものですね。

○知事

ひすいうりなんていうようなものがあるけれども、いいですね、これは。

○参加者

昔ながらのものです。

○知事

随分、トウモロコシが膨らんで、太いですね。

○参加者

終戦後の食糧難の時代から、上野原市の一番北西にある西原でつくっているんですけど、５月の連休前後に作付けをして、今がちょうど出来頃です。ハニーの甘いモロコシは、入れ歯の人が食いついたり出来なくて、歯へ付いたり、うまくもげないんです。でも、この甲州モロコシは指でポロポロと取れるんです。

○知事

これは甲州モロコシというんですか。

○参加者

ええ、甲州モロコシとね。終戦後の食糧難の時代は、生では食べない。これを乾かして、そして水車で粉にして、モロコシ饅頭とまではいかない焼き餅をつくる。朝飯はサトイモが主食だったんですよ。昼や雪の降ったときなどは、大概、このモロコシの餅を食べたんです。田もないし、米も買えなかった。それで子どもが多いし、家族が多かったもので・・

○知事

それで長生きができるんですね。

これだけのものができるということは、やっぱり土が非常にいいということですかね。

○参加者

そうですね。

子どものころから、こういう生活をしてきたから、今でも１回煮て、ちょっと冷めたところで、まきを燃やした火で焼くと、すごいまた味が良くなるんです。

○知事

これは生でも食べられるでしょう、新鮮だから。

ちょっと生臭いですか。

○参加者

ほとんどは、先に煮て、そのあと、それを焚き火の残ったところに入れて、ちょっと冷めたところで焼いて食べるのが、一番好物で・・　こういう昔ながらの生活をしております。

○知事

このナスはすごいですね。

○参加者

これはソ連のですね。

○知事

ソ連の。ナスの一種ですよね。

○参加者

ブランドローズ。

○知事

京都の賀茂なすみたいなね。

○参加者

私は賀茂なすをほとんど今、談合坂へ出しているんですよ。ですけれども、どうしても東京の人は賀茂なすになじみがないから、売れませんよと言われたんですよ。確かにあまり人気ないです。

○知事

なるほど。大き過ぎる。

○参加者

そうですね。

そして食べ方が分からないから。

普通のナスを作るか、賀茂なすを作るかと。だけど誰も作らないから、とりあえず賀茂なすを作ってみようと。そして、それで今度、それを上野原の名産にどうしてもしたいなと。

○知事

これは普通のナスと違って、ちょっと味が違いますか。

○参加者

やっぱりソ連系で、やっぱり全然違います。

○知事

違いますか。そうですか。

○知事

こういうように緑色（の玉子）になるには、どうするんでしたか。

○参加者

それは南米のチリ原産のアローカナという品種なんです。

○知事

そういうニワトリですか。

普通のニワトリとは違うんですね。

○参加者

そうですね。

○知事

これは多少やっぱり高く売れるんですか。

○参加者

これは知事さん、普通の玉子なら、割ると黄身がだらんとなって、ずくずくに

なるけれど、ここでつくっている卵は自分の手で黄身を持てる。

○知事

こう膨らんでいるということですね。

では、一つこれをちょっとやってみて。

○参加者

知事さんによく見せてやって。

○参加者

緊張してます。（玉子を割って、黄身を持ち上げて・・・）

○参加者

知事さんには持てないですよ。

○知事

やっぱりこれはプロじゃなければ駄目ですか。

○参加者

こんな感じで・・・　普通の黄身なら持てないからね。

○知事

素晴らしいですね。

これは、飼料がいいということですよね、どういうような・・

○参加者

まず設備が違いますね。

○知事

これはしかし都会なんかにはいいですよね。

○参加者

普通の玉子なら、だらんとなってしまうから。

○知事

これはじゃあ、放し飼いをしていますか。

○参加者

いいえ、ケージ飼いです。

○知事

ケージ飼いで。そうですか。

これはブルーベリーですね。こういうものも作っているんですね。これなんか本当に都会人に喜ばれそうですね。

○参加者

県のＷＥＢサイトで県特産品を売りましょうというものがあって、県指導のネットショップに私も参加させていただいています。

今、談合坂のサービスエリアで一応、野菜などを売っているんですけれども、やはり１つだけの販路では・・。

○知事

これはミニトマトですね。

ミニトマト、アイコというんですね。

○参加者

ほかの野菜もそうなんですけれども化学肥料や農薬を使わないで、極力、水分も水も与えないで作るんですが、肥料も地元のものを使っています。

○知事

堆肥にして使っているんですね。

しかし、それぞれ素晴らしいですね。いろいろ工夫されて。

さて、ところでいかがですか。

どなたでもいいですけれども、いろいろ抱えている悩みや問題などありませんか。

○参加者

悩みはいっぱいあるんですけれどもね。

知事さんの顔を見ると、お願いすることばかりなんですが、今、私ども、談合坂サービスエリアへ出荷しているんですが、今テントでやっているんですが、施設が非常に狭くて、それと夏場なんか暑いものですから、霧を吹くものをお願いしているんですが、なかなかそういうものが実現できてなくて・・　今年は余計暑いので、新鮮な野菜もすぐだらっとなってしまって・・　だからそういうところを、中日本なんかと交渉はするんですが、なかなかそれがはかどっていないので・・。

○知事

霧吹きというのは、どういうものですか。これは中日本エクシスという会社がやっておられるわけですが、その人たちがやるんですか。

○参加者

お願いはしているんですけれども、こういう並べてある上にパイプみたいなものがあって、それからこう霧が出るようになるんですね。

○知事

そういうものがね。そういうものを設置してくれと。噴霧器みたいなね。

○参加者

そうですね、そういうようなものとか。

売り場もちょっと狭くて、今、会長が言っていましたけれども、約２００人ぐらいの会員がいますので、出るものも土日だと、ものすごく多いんですよ。それが結構さばけるんですよね。

○知事

施設を広げれば、まだまだお客さんに売れるんですか。

○参加者

そうですね、売れる見込みはあると思います。

○知事

今１億２千万円・・・。

まだまだ広げれば、かなり出ると。

○参加者

そうですね。

○知事

今、常時、大体、物がなくならないように、何かしているんですか。

○参加者

平日は会員の人は勤めもしている人がいるので、ちょっと少ないんですが、でも、平日でも５０人から６０人ぐらいは出していますかね。結構売れていますので。

○知事

だけど中日本エクシスという会社が自分で経営しているということですか。

○参加者

管理を行っています。

○知事

例えばこういうものの置き場所だとかは、誰がやっているということですか。

○参加者

中日本で。

○知事

全部やっている。

じゃあ経営はそこでやっているということ。

○参加者

そうですね。

○知事

じゃあ、その中日本の職員が２人ばかりいて。

○参加者

売っているのはバイトの人が。キャニーという会社の人が売っているんですけれども。

○知事

こういうものも品揃えみたいなものをちゃんとやったり、置き場所だとか何だとかですね。そういうのはあるんですよね。

○参加者

そうですね。まずは売り場の確保ですね。それが今、テントになっていますので・・　テントの上がちょっと薄いテントだと、光を通すものですから、テントの色で、この野菜物が本物の野菜に見えないこともあるんですよ。だから、そういうことも改善をお願いしたりしているんですけれどもね。なかなか・・・。

○知事

今どういうふうにして中日本に話をしているんですか。どなたが誰に話をしているんですか。

○参加者

市役所を通じまして、八王子に事務所があるんですけれども、そこの方と。

○知事

そうですか。分かりました。

私も話を聞いてみましょう。

○参加者

お客さんが新鮮なものをと言うが、こちらが新鮮なものを出しても、今年みたいにすごく暑いと、また余計に野菜がだらけてしまって・・。

○知事

屋根はあるでしょう。

○参加者

ええ、あります。

○知事

だからその下に。

○参加者

屋根の外側なんです。

○参加者

トイレとレストランの間のアーケードの外なんです。

だからテントとテントの間から雨がみんな漏れて・・

だからそのアーケードをもう少し大きくしてもらえれば・・。

○知事

分かりました。

○参加者

台風が来ると、テントを片付けて、たたんで縛って、そしてまた営業をちょっとストップするわけですよ。

○知事

そうですか。

○参加者

それでぜひ県のほうにもお願いしたいんですが、間伐材を活用して、ぜひ木製の建物がほしいんです。テントだとどうしても夏は暑いし、お客さんも入らないし、野菜も痛みますし・・　固定したりするとまずいということなので、車が付いていればいいんじゃないかという話があるんですけれども・・　ぜひ県として、間伐材の有効利用という中で、建物が出来ないかなと・・・。

○知事

間伐材を使った建物ということですね。

○参加者

そうです。そういう補助金か何かという形で、働き掛けをしたほうが、中日本にしてもスムーズにいくと思うんですよ。

○知事

ただ、建物をつくるとなると、誰がつくるかと言うことになる。県は補助金は出せますがね。皆さんが建物をつくるかということになるわけでありますが。

今、中日本が何でもつくってくれていますね。中日本が間伐材でつくってくれれば、それが一番いいわけですよね。

○参加者

そうですね。ただ、金額がかかるでしょうから、やはり県のほうもこういうもので補助するよという形でいくほうが、相手のほうもいいんじゃないかなと思う

ので。

○知事

もちろん中日本エクシスも、儲かっているでしょう。

売り上げのどのくらい取られているんですか。

○参加者

２０％です。加工品が２５％ですね。

○知事

毎年、２千万円や３千万円は入っているんでしょう。

○参加者

学校給食の食材提供協力が今年で１０年目になります。今日取れたものを明日、給食で生徒に食べてもらうのが、一番の念願でございます。また、残飯もかなり出るんですが、それを調理場で再度加熱して、今度はそれをコンテナに入れて、今度は畑へまいて、すぐ耕運機でおこします。そうすると、かなりの窒素分が含まれているので、化学肥料をかなり少なくしてやっております。

栄養士さんが必要だと言う、ネギ、大根、ほうれん草、キャベツなどの品物を会長さんが会議を開いて、誰々は大根を７０キロ、では次の幾日にはほうれん草を何キロとか、ネギを何キロとか振り分けて提供しています。栄養士さんと相談したり、栄養士さんが会議に参加してくれて、こういうものを作ってどうだったか、物が悪かった、今度は直してくれと・・　では直しますというやりとりをしている。

○知事

給食センターは１本でやっているわけですか。

○参加者

最初できたときには、２，２００食ありましたが、現在、生徒も減りまして、６００食ぐらい減っているらしいのですが、まだ減るのではないかとも言われております。

先生が、朝、白衣を着て、量りへかけて、はい、これとこれで何十キロですよというように、向こうが全部写真に取ったり・・それを１週間保存する。子どもがあれっ、気持ちが悪くなったな、おなかを壊したなと・・　そうすると栄養士さんが、すぐに調べて、あれっ、消毒が多すぎたからかなと。１週間物を保管しておりますけれども、全く駄目だったなということが、１０年間１回もなくて、役員がいつも、こうしろ、ああしろ、こうだよという会議を開いてやっております。何しろ新鮮なものをということが一番念頭にあり、現在も続けております。

○知事

素晴らしいことだと思います。

あとはいかがですか。

○参加者

これは、サカタの雪化粧というものなんですが、去年の８月、９月の日刊紙の全国版で宣伝してもらって。

○知事

雪化粧というんですか。このカボチャはどうですか。少し軟らかい。
味はどうなの。

○参加者

うまいです。それはもう甘さといい・・・。
約２００個ぐらい取れます。

○知事

主として談合坂に出しているんですか。

○参加者

そうですね。大きすぎるものですから、３つ切りにしたり、４つ切りでもいいんですけれども、３つ切りで１つ２３０円から２５０円ぐらい、連日、飛ぶように売れています。

○知事

これはいいですね。色もなかなかいい色しているしね。
ジャガイモはどなたがお作りになっているんですか。

○参加者

自分です。

○知事

そうですか、大きいですね。これは何という種類ですか。

○参加者

男爵です。
学校給食のほうへみんな出しています。

○知事

これは上野原のどのへんで作っているんですか。

○参加者

東京テクノパークの工業団地の一画の畑で作っています。

○知事

なるほどね。

○参加者

この前、石和のスコレーセンターで、知事さんから地産地消の関係で大変ありがたい表彰状をいただきました。その前は日本農業賞の山梨県代表ということでいただきました。ありがとうございました。

○知事

それは、じゃあ随分手広くやっておられるんですか。

○参加者

学校給食の関係で・・。

○知事

学校給食の供給者としてね。

○参加者

そうです。

○果樹食品流通課長

ＪＡクレインの食材提供部会が、山梨県の中でも一番の優良事例という形で。

生産者の皆さんと学校の給食現場と本当に密接に情報交換をしながらやられて、ずっと長く続いているということで・・。

○知事

１０年だというからね。

○参加者

ここで１０年経ちますから。

○知事

大変なことですね、全くね。

○参加者

明日、またその会議が、１カ月に１回、割り振りの会議を。

○知事

部会の材料を、食材を割り振るわけですね。

○参加者

そうです。

○知事

大事なことでね。本当にだんだん子どもが減っていくから、もったいないですね。

○参加者

だから当初は約４０トンから５０トンぐらい使っていたんですが、今は４０トンを切って３５トンぐらいじゃないですかね。

そのうちの大体、今７トンから８トンぐらいの食材を提供しています。これから９月は、ジャガイモと、とりあえずはネギ、あと１０月に入ると、大根とかほうれん草とか小松菜とか、そういうものが入ってきて、１１月、１２月、１月、２月ぐらいまでは、ほとんど毎日、誰か彼か、部会に行って野菜を納めています。

○知事

食材でどのくらい地元のもので賄うということですか。

○参加者

ジャガイモとかネギとかという、そういうものは大体７０％ぐらいは納められるんですけれども、そのほかの葉物なんかは、４月ごろから夏の１学期の間、ほとんど作れないので、葉物のほうれん草なんかは半分ぐらいの量になっています。

○知事

しょうがないですよね。

○参加者

全体で平均すると、大体３５％ぐらいですか。

○知事

それでも大したものですね。

ほかにいかがですか。

○参加者

新しい農業、これからの農業をいかに発展させるかということで、やっぱり農

業だけにこだわっていると、先が見えてきてしまうということがあって、私、個人的ではありますけれども、障害者施設と農業とのかかわり合いということを、今始めているんです。農産物を作っている段階から、販売までを障害者施設とのコラボレーションを考えて、今始めたところです。八王子市の障害者施設で、ＮＰＯ法人と取引を始めているんですけれども、八王子市からは補助金申請をとって、いわゆる農業に対する、その取り組みを障害者もやりましょうと。

障害者が働く場、障害者施設を出てからの、いわゆる自立支援のために、我々が作った農産物、自分で作った農産物を販売し、加工から自分の商品を出すまでやりましょうよという取り組みを始めています。これから、ひとつの農業というだけにこだわらずに、いろいろなところとのコラボレーションを図っていければいいと思って、その取り組みを始めているところです。

○知事

それで何か、加工食品を作っているということですか。

○参加者

生食でもすべて取れたものを向こうへいって、その障害者施設の人たちが自分で食べる昼食もあるし、そこのお店で売るものもあると。残ったのは、加工にして販売するという。

○知事

例えばどんなものを作っているんですか、加工というと。弁当を作ったりする。

○参加者

はい。そこは八王子市役所などの職員の人なんかにも出しているところなので。

○知事

障害者授産施設ですね、それは。

○参加者

そうですね。

○知事

仕事の場をね。

それは大事なことですね。

○参加者

有機農業の研究会があるんですが、その有機農法でつくった安全・安心といわれている、その化学肥料を使わないで作ったものを食べる。今までそういうものを食べなかったせいで、もしかしたら自分たちの子どもが、障害を持って生まれてきた可能性もないんじゃないかということを、その親たちが盛んに言っているので、そういう人たちは、安全・安心な野菜、食べ物にこだわっている。

そしたら自分たちでも作って食べましょうということで、できるならば我々もその関わり合いを、どういうふうな形でやっていくか。うまくいきましたら、ご報告させていただきます。

○知事

八王子とか東京に近いわけですから、いろいろと連携をとればいいと思いますよ。

○参加者

そうですね。東京都民、山梨都民と言われている場所ですから。

○知事

そういうことですよね。

直売所なんかも向こうで出せれば、出したほうがいいんだけれども、なかなかやっぱり向こうの農協に妨害されますかね。

○参加者

でも本当は出したいですよね。

前、知事さんの県政報告会か何かのときに、農大の先生が地産地消ということで、何から何まで全部をその町でやるという、６次産業という話をちょっと聞いたんですが、ああいうことが、本物になれば大したものだなと思うんですが。

○知事

こういうもので加工食品を作って、それが特産品になるといいですよね。

○参加者

そうですね。

○知事

そうはいっても、昔からやっぱり地元で食べているものがいいですね。

櫚原とか西原もそうだけれども、長生きの里だからね。どんなものを食べているのか。そのトウモロコシのおやきか何か知らないけれども、あれは何と言いましたか。吉田のほうでも食べましたよね、昔ね。トウモロコシの粉でね、こう焼いてね、茶の子って言いましたかね、あれ。

ああいうものを出したらどうですか。

○参加者

霧深いところのほうがおいしく食べられるみたいですね。ゆでるときに塩をバラバラっと、ふるんですけれどもね。そうすると、味がまた良くなる。

○知事

珍しがられるところでね。こういうものを直売で売るのも、もちろんいいんですけれども、ちょっとした加工をして、価値を付けていくことがいいですよね。

後ろのほうの若い人たちはどうですか、何か。

○参加者

ひとつよろしいですか。

県では新規就農者や遊休農地等には手厚い支援をしていますけれども、ここにいる皆さんは地元で頑張っているということで、販路もどんどん拡大していきたいとは思っていると思うんですが、東京都内にある山梨県のアンテナショップ等で、その上野原の農畜産物をＰＲするような活動をしていただければと思います。

我々個人でやるとなると、営業力が弱いものですから、どうしても行政サイドの支援をいただきたいと思っています。私も個人的には都内の一流レストランに納めさせていただいていますけれども、シェフたちが自分の農場なりに来ていただいて、やっぱり評価してくださると、それなりのレベルアップは図れると思うんです。

やはりそのやさい村で野菜を売っている方々も、それが評価をいただいて、スキルアップしてきているとは思うんですが、それを活かして都内の販路の拡大にぜひとも行政の支援をお願いしたいとは思っています。

○知事

山梨県のアンテナショップというのは、「富士の国やまなし館」なんていってね、日本橋にあるんです。場所はいいところなんですけれども、日を決めて、それぞれ生鮮品を持ってきて売る、場があるんですよね。

○司会者

ＮＰＯで売っていたり、農業をやっているグループがいて、農産物をじかに行って売っていたりしています。

○知事

あらかじめ日を決めてスペースを借りなければいけないんですが、皆さま方のグループがそこを借りて販売はできるんですよ。

○参加者

私どもの会で、田中角栄さんの通り、目白通りというんですか、あそこを１回借りて、朝、野菜を持っていったんです。そうして、これは山梨の野菜だといったら、ものの３時間ぐらいで、バーッとはけちゃったことがありますよ。

○知事

本当はどこかに店ができれば一番いいですからね。

○参加者

上野原市で何とか、こういう農業をやっている人がどこか事務所でも借りて、そこで売れば、すごく売れると思うんですよね。

○知事

確かにね。

売る場所が、場所さえあればね。

○果樹食品流通課長

マルシェという形で、何カ所でいろいろな繁華街のところで売っているところがあります。

○知事

あれは民間の・・。

○果樹食品流通課長

民間の活動で農水省で後援もしていますけれど、ただ、そこへ行って、そこで売らなければならないので、ちょっとやっぱり人手といいますか、そういったところがちょっとやっぱりネックなんですかね。

○参加者

談合坂サービスエリアでやっていれば、結構、市のためになると思うんですよね。

○知事

その東京のアンテナショップへやる部分であれば、それは皆さまの仲間でどういうグループでもいいんですが、グループをつくって、そしてその、これはどこ

へ申し込む。

○司会者

やまなし観光推進機構でも観光振興課でも、どちらでもよろしいと。

○知事

そういう組織があるんですよ。そこへ申し込めば、何月何日の土曜日なら土曜日と。で、そこに持っていく。

○参加者

申し込んで販売することは可能だと思うんですけれども、行政サイドでどこまで支援をしてくださるのか。ＰＲ活動をしてくださるのか。

○司会者

富士の国やまなし館のホームページがありますので、そこを見てもらうと、どんなものが出ていってやっているかというのはチェックできますし、所場代も外でやるときはお金を取られないような仕組みができていたりしますので、それをぜひ直接相談してもらったり、情報収集をしてもらえると、割合すーっといけるかなという気はします。

ぜひホームページをチェックしていただいて・・。

○知事

野菜をもっていけば、たちまち売れるでしょうね。

ただ、あまり広くないから。そんなに量が入らないんですよね。

○参加者

いい品物とか野菜なり何でも、上野原の野菜がいいなということで、リピーターになってくだされば、それなりに・・。

○司会者

以前、ＮＰＯが木曜日だったか、毎週行って売っていると、おなじみのお客さんが待っていて、買ってくれるという状況にもなりましたので、やっぱり少し実験的にやってみて、うまくいきそうであれば、定期的にずっと続けるということも可能ですので、ぜひ・・。

○知事

あとはいかがですか。

○参加者

やさい村ができてお客さんもお金を落とすというか、いろいろなものが売れるようになったんですけれども、いまだにまだちょっと上野原というのは、観光的には、遊んできた帰りにちょっと寄るという形の場所なんですよ。

だから、上野原にもっと滞在してもらって、ちょっと農家を回ったりとかするような、お客さんの流れをつくれば、全体的にもっと上野原は潤うのかなと思うんですが、私も思っているだけで何をやっていいのかというのは、ちょっと分かりませんけれども、そういうような形で発展していけばなと思いますけれども。

もう１つ、小仏トンネルですごい渋滞するんですね、土日なんか。お盆のときなんて、１週間も毎日渋滞してしまうんですけども。渋滞してしまうと野菜が全然売れなくなってしまうんです。お客さんはいっぱいいるんですけれども、物は

売れないという形で、それが無料化の影響かここのところ、頻繁に起こるようになって、ちょっと野菜の残る量が多くなりましたので、どうしたらいいものかと。

○知事

この渋滞は本当に県として非常に困っているんですよね。東京へ行く高速道路というのは、常磐道だとか、あと関越道とかありますが、その中でも一番渋滞するんです、小仏がね。

これは２車線だからなんですよね。だから一番渋滞するんですね。だから山梨県全体にとって、マイナスで、やっぱりゴルフならゴルフをやって、帰ってくる人がみんな渋滞で引っかかるものだから、山梨は嫌だと、こういう人が多いんですよね。非常にマイナスでして、ところが道路整備計画は東京と神奈川県の境なものだから、山梨の外なんですよね。

だから盛んに石原都知事や松澤知事に話をして、山梨と一緒になって、今この小仏の渋滞対策の検討会をつくって、国に働き掛けているんです。

しかし、どうしてもやっぱり別の線を１本つくらなければいけないことで、これは大変お金がかかって、今の政権のもとで高速道路はこれからつくらないと言っているものだから、難しいんですよね。

渋滞問題は大問題ですが・・　しかし、今すぐどうしろといっても・・・。

都会の人が滞在という話は・・・。

○参加者

渋滞で止まっているんですから、そのお客さんをうまく上野原へ、ちょっと止まっていけるような何か・・　我々も談合坂でちょっとそういうものを何か発信して・・・。

○知事

談合坂にいわゆるスマートインターをつくることになり、今、その計画をつくっているわけですけれども、中途を下りてということはありますね。だけども、近くに観光地で、うまいところがあるかどうかね。

またそれから上野原は割と農業を一生懸命やっておられるわけですが、例えばあれですか。クラインガルテンみたいな、市民農園は。

○建設経済部長

市民農園は今２カ所あります。

○知事

滞在型のものはありますか。コテージがついている。

○建設経済部長

滞在型はないです。

○知事

滞在型があるといいけど、しかしこれも募集の倍率がすごく大きいですよね。

そういうものがあれば、みんな都会から来ますよね。

○参加者

今、販売のほうの話ばかり出ていましたけれども、実は知事もご存じのとおり、上野原地区の農地というのは平らなんですけれども、うちはここからちょっと在

のほうなんです。談合坂よりは近いんですけれども、農地がみんな傾斜地なんですよ。それで自分もちょっと専門にやり出して５年ぐらいなんですけれども、労力といったら、倍もかかるような、持ち運びとかね。根気というか、耕すには傾斜地で、なかなかきついところがある。

もうちょっと取り付け道路というか、農地へ入るまでの道とか、大々的に広いところがあれば、県のほうでバックアップさせてもらえると思うんですが、何しろ狭い耕地へ距離があって行くというのはなかなか大変ですよ。

それをもうちょっと近くのところで、遊休地になっていたところがあるんですよ。使っていないところがね。そういうところが今、個人的に借りるというのはなかなか大変なところがあるので、行政的にそういうところを優先に借りられるような指導を願えたら・・。

○知事

遊休農地は随分あるんですか。

○参加者

随分というほどでもないです。傾斜地だったら結構ありますが、平らなところはない、ただそういうところも、空いているようなところもあるのでね。

○知事

農地活用サポートセンターですか、農協が遊休農地を買って、募集して、また貸しするという。今、どことどこが・・・。

○果樹食品流通課長

ＪＡフルーツ山梨、甲州市とか。

○知事

こちらはまだそれをやっていないんですかね。

農協か何かが絡んでくるとね。

○参加者

なかなか個人というのは、今までのいろいろないきさつで・・・。

○知事

そうですね。市町村の農地バンクみたいなものもありますけれども・・

確かにおっしゃるとおりね。

遊休農地をそうやって借りてでもやろうという人が大勢いるのであれば、大いにそれはいいですね。

○参加者

たぶん、このほかの方も結構、平らなところではなくて、ある程度の傾斜地を一生懸命やっている人もおられると思うので。

○知事

野菜はあれでしょう。多少斜面になってもそんなあれでしょう、苦にならないでしょう。

○参加者

自分でやってみて、やっぱりほうれん草とか小松菜というのは、平らなほうが。

穀物というか、トウモロコシとかね、ソバとかでしたら、勾配のあるところも

いいんですけれども。

○知事

そうですか、なるほどね。

○参加者

ちょっと関連してよろしいですか。

農機具とかも安くできるようなシステムにしてほしいなと。例えばハウスですよね。今はそういう補助金というか、そういうものがなくなったと思っているんですが、それをまた復活させていただいて。

○知事

ハウスはどうですか。

○果樹食品流通課長

例えば皆さん共同で、直売所向けの冬場に供給できるような体制にするためのハウスという形であれば補助もあると思います。

こちらのほうでも、確か前にもそういう形で・・・。

仕組みは変わってないですので。

○参加者

どうしても冬の野菜とかが少ないんですよね。買い求める方も結構いますので、それはぜひ必要かなと。

○果樹食品流通課長

直売所ということであれば、そういうハウスで冬場のものはね、どうしても必要となってきますので。

○参加者

上野原の何か特産というか、そういうものもほしいなと。我々も今、いいじゃん会という会をつくってやっているんですけれども、数人でブランド品を作ろうということで、ちょっと何品種かあげて、実際に作ってみるんですけれども、なかなか個人の集まり軍団ですから、思うようにいかないので、それもちょっと困ったねと。そういうシステムというかね、一緒に市役所さんとか農協さんと一緒にやっていけるような、そんなシステムにもできれば、今後いいかなと思っているんですけれども。

上野原インターもありますし、秋山温泉もありますし、ゴルフ場も結構あるので・・　実は桂川の橋の手前にちょっと我々、お店を開いているんですけれども、今、県とそれから市役所のほうでだいぶお骨折れをいただいて、あそこで一括させていただいているんですが・・。

ゴルフの帰り客も最近は少なくなりました。去年と比較したら。３分の１ぐらいなんですね。我々、いろいろな野菜を出して売っているんですけれども、すごく喜ばれているんです。先ほど誰かも言ったように、上野原の野菜はおいしいねというようなことを言ってくれるので、すごくうれしいんですが、ただ何せ、お客さんが来ないと、それを呼び起こせられるものがないので、そういうブランド品とか、いつ来ても上野原に行くと、あんなものがあったよというものを、もう少しあればいいなという感じでいます。

○知事

そうですか。

そういうハウスをつくるときには、補助があるようですから。

○参加者

先ほど上野原有機研究会という話があったんですが、私ども、ここにも何人かメンバーがいるんですが、安全・安心ということで、化学肥料や農薬を使わない野菜の栽培ということで、我々、有機農業の研究会を立ち上げているんですが、現実問題、県のほうの指導というか、有機農業に関してのものに関しては、申し訳ないですけれども、上野原有機農業研究のほうが先行していまして、技術指導をどうしたらいいと、提案をしても、お宅のほうが知っているからというふうな形にされちゃっているんですよ。ぜひ、そういう意味でもっと有機農業のほうに、県サイドのほうで実証実験とか、そういうものは確かにやっておるけれども、それよりもっとアドバイスをほしいと思うんですが・・。

○知事

農務事務所の営農指導センターですか、そこへ話をしてもあまり技術は持っていない。

○参加者

はっきり言って。

○果樹食品流通課長

やはり有機農業って、農業の体系とはまたちょっと違ったスタイルですので。

○参加者

ですからやはりもうちょっとアドバイスをほしいなと思うんですけれども、非常にそのへんがじれったいというか、もうちょっと勉強してほしいなという、情報がほしいんですけれども。

○知事

正直、有機農業はあまり県はやっていない・・・。

○果樹食品流通課長

試験場で今、試験を始めているというぐらいなんですが、なかなか日常技術として指導できるだけの力はちょっと・・・。

○参加者

ですから、うちのほうの上野原有機野菜研究会というのも、私、そこにキュウリを出してあるんですけれども、緑色のラベルのものは、上野原有機農業研究会のＱＲコードというものが付いていますね。そこのところを、携帯で読み取るとうちの会の活動内容が見られるようになっているんですよ。その下のテストケースという形で、成果という赤色の、生い立ち、作り方がわかってくるんですけれど、私がその野菜をどういうふうに作ったのかということが分かるんですよ、ＱＲコードにすると。そういう形で試験的に上野原有機農業研究会はやっているので、今ラベルを貼って、どういう形で反応があるかなということを見てはいるんですけれども、結局、安全、安心と今盛んに言いますけれども、うちなんかは農薬、化学肥料は使ってないので、そういう表示ができないんです。ＪＡＳを取ら

ない限り。そういうことで非常に大変なんですけれども、そういうような点が、なんとかしたいなということの中で、原材料はぜひそういうような意味で、できたら情報がほしいです。

○果樹食品流通課長

県内全体で有機農業の連絡協議会という、そちらの事務局にまず入っていただいている。

○知事

どこがそういうことを検討しているんですか。

○果樹食品流通課長

総合技術センターのことですね。技術管理とかそういうことをやっておりますし、あと組織的に有機農業の連絡協議会、県内の、いろいろな団体がありまして、そちらのほうの事務局を県のほうで持ってやっているんですけれども、そういった中での横の情報連絡とか、そういったことは密にやっていきたいというように思います。

○参加者

そうですね。果樹に対しては結構、専門的にかなりやっているんですけれども、我々が作っている野菜的なものに関しては、それぞれのグループでそれなりのノウハウがあるようには思うんですが、ぜひそのへんのところを県として・・。

○知事

分かりました。

○参加者

私たちもほかに学校給食とか、いろいろやって立ち上げたんですけれども、高齢化も結構進んでいまして、野菜を作るのに、結構、意欲的に最初はやったんですよね。それで皆さん、こういう販路が広がって、結構、意欲的にやっていると思いますが、今住んでいるところが山間地なもので、鳥獣被害の問題が多くて、春は例えばたけのこ、そのあとはカボチャをやられた、それから秋になるとクリだとか、今現在、夏場はカボチャ、それからトマト・ナス、あらゆるものがイノシシ・サル、それからモロコシはこの間、ハクビジンに全滅された。

自分たちも春にしいたけなんかサルにやられますから、それを考えたときに、意欲がなくなってしまうんですよね、全然。またやられるのかな、いつ来るのかなと、もう完全にやられてしまいますから。だから、そういうところで、今年、猟友会の人は１年間、この場合は駆除ができますといわれているから、そういうことを継続してやってもらいたいと。

電柵とか網を張っても、個体数が減らないから、逆にそれで山なんか今、下刈りをしていませんから、そんなに。余計それでもう上野原も、上野原在住のサル・イノシシ・ハクビシンが増えるわけですね。そうなった場合にやはり囲っても、囲っても、囲いきれないんですよ。

それならもうちょっと考えて、山梨県全体、日本全体だと思いますが、何とかしてもらわないと、この先だんだん出没、町の中にも出るようになるのでね。本当に僕らのところはいなかったんですよ。

○知事

この鳥獣被害というものは大問題で、これは端的に言うと、鉄砲で撃つ、個体数調整でね、これをやるのが、一番早いといえば早いんですが、猟友会がだんだん高齢化をしてきてね、なかなか難しい。

毎年、県としても５千万円ぐらいですか、鳥獣個体数調整のために金は出してやっているわけですがね。なかなか追い付かないという状況ですね。

したがって、やっぱり防護柵ですね、防護柵。防護柵は相当やっていますか。

○参加者

防護柵は最初、網をやったんですよ。網をやったら、よかったけれど、イノシシがものすごく潜りますね。次に電柵でやると今度は草刈りが大変ですね、やはり。絡まったりして。だからやったりやらなかったり、まあいいやと思って・・イノシシは猟友会に頼めば減ったから、イノシシが減ったかなと思えば、サルはもう観測できないですね。

それでサルはもうハンターの人の車を見ると、アンテナが付いているものですから、先に逃げます。そして常時、サルの番を猟友会の人がするかといったら、そうじゃなくて、逆に夏場なんかは、暑くて逆にまいるから、途中で熱中症になるから、やっていられないと。だから、畑にサルがね、昨日もやられたんです。、ちょっと留守の間にナスとかそっくり。根が残っているから、また次に花が咲くんですけれども・・・・。

だから、ここ何年かはサツマ、モロコシを作っています。

○参加者

知事さん、私どものところは、神奈川県と接しているんですよ。あそこはサルが県境越しで出てくるんですよ。

いくら上野原で対策をしても、サルは動くんですよ。向こうの猟友会も私どものほうに来ますし。

ぜひ神奈川県、もちろん相模原市もひっくるめた中で、ぜひ対策をお願いしたいです。

○知事

なるほど分かりました。

シカなんかについては、東京都とか埼玉県とか、あるいは長野県とか、そういうところと一緒にやっているんですよね。神奈川県とやっているという話を聞いたことがありませんね。

○参加者

サルはそういうことで本当に川越えで来ているんですよ。ぜひ、そのへんは県も一緒にぜひお願いしたいですけれども、市だけでは無理だと思うんですよ。

○知事

おっしゃるとおりですね。

もう市段階ではなかなか難しいですよね。動きますからね。

○参加者

ぜひお願いします。

○知事

そうですか、分かりました。

○参加者

どこかの県で山の奥のほうへ、どんぐりだとかクリだとかを植えると里へ下りてこないというのが、結構効果があったということを、ちょっとテレビでやっていたことがあるんですが、何県かちょっと忘れたんですけれども。

そういうふうに、今この屋上へ上って、向こうを見るとわかるんですけれども、山の頂上まで黒木がずっと植わっているんですよ、７０％ぐらい。

だから、そういう木もあってもいいんですけれども、それをところどころ、そういう実のなる木を植えれば、効果が出てくる・・・。

○知事

戦後植林しましたからね。いわゆる単層林ですよね。針葉樹をね。あれがちょうど大きくなったものだから、真っ暗ですよね、間伐なんかしていないと。あれはどうにもなりませんよね。

今、切ったあとというのは、混交林にしている。要するに、ヒノキも植えますけれども、同時に広葉樹を植えたりする。混交林というのは、アケビとかが出るようなことをやったりしますけれども、しかし、１回人間が作ったものの味をしめるとね。

とりあえず防護柵をぜひやって、山梨県独特の防護柵があってね。

○果樹食品流通課長

ご存じかどうか分からないですが、県の総合農業技術センターというところで、非常に簡易な柵ということで、あまり費用がかからなくて、サル・イノシシだけではなくて、ハクビジンとかアライグマとか、最近また増えているという、そういったたくさんの獣種類に対応できて、低コストであまり手間もかからずに設置できるという、獣塀くんというものがあるんですが、そういったもので手軽にその柵をつくっていただくということも１つの手ですが、ただ先ほど言うように、草を刈るときの手間とか、そういったものがやっぱりかかるのかなということも。

○参加者

１，２年は、それで対策はできるかもしれないですけれども、さっき言われましたとおり、こっちでやると向こうへ逃げる、そして向こうでやるとこっちへ逃げる。それで住所はここなんですよね。

だから山へエサを持っていっても、山へいかないですよ。里で慣れているから。

だから、そういうものはどうしたらいいかということを考えておかないと。

○知事

これは、山梨だけやったって駄目なんですから、一時期、国で自衛隊を使って徹底的にやるしかないという話があったんですけど、動物愛護派というものがありましてね、それはとんでもないことだということになってしまう。

○参加者

サルは撃てないらしいね。

○知事

個体調整はやりますが、防護柵をやっぱりちょっと考えて、そういう簡易な非常にうまい、個人で簡単に設置できるんでしょう。

○参加者

サトイモをイノシシにやられるから、その周りを、収穫時期に囲うとか。そういうことはできるんですけれども。

○参加者

銃で駆除しようなんて思っても、やる人たちが年齢も来ているし、この暑さもあるし、犬に、電柵も張ってあるから犬も動かない。だからそういう状況で、もう猟友会の人たちにお願いしたって、みんなの話を聞けば、１つか２つ残しておかないと楽しみがなくなるということを言うんですよ。

○知事

今、サルを１発撃てば２万５千円ですからね。シカは１万５千円かな。全部は入りませんけれどもね。猟友会の取り分があるから。本人にも相当いくんですよね。だけど、それでも撃たないんですね。

最近は銃刀法が厳しくなって、更新をするのが大変です。だから駄目ですね。

これは防護柵を何とかやってほしいですね。

○参加者

長野かどこかでやっていたのかな。結構、檻の大きいもので、入るんですね、イノシシが。そういうものを個人で作れといっても、なかなかできないもので、今日、出ているよと言えば、貸していただければ、取って、あとは猟友会でやってもらえれば・・　サルもそれに入るかどうか、ちょっと分からないんですが。

○知事

これは重要な問題で大変なことですね。

あとはいかがですか。

○参加者

今その話で、この前、ちょっとテレビを見ていましたら、確か韮崎のほうかどこかで草刈りする代わりに、牛を放牧して、その牛が草を食べるので、周りがきれいになると、イノシシとかが出てこないということで、テレビでやっていましたが、県のほうでは・・・。

○果樹食品流通課長

県でやっておりまして、遊休地になってしまったところを、簡単にはできないですが、牛を放牧しておくことによって、みんな草をきれいにしてしまいますので。

○参加者

結構効率はいいんですか。

○果樹食品流通課長

そうですね。あまり傾斜のところだと、なかなか難しいんですけれども。また、それがご希望でしたら、またこの関係のところへ、またつないで、まだそういうことを県下でいろいろなところでやっていますので。

○知事

まだお話になっていない方は。

○参加者

私、アグリマスターをしているんですが、今、若い方を１名みているんですけれども。

○知事

それはありがとうございます。就農定着制度ですか、それとも農業協力隊で。

協力隊で。それはご苦労さまです。

○参加者

これからしたいという方は、どうしても北杜市の農業大学校まで一年間通えと。そういうことになると、とてもじゃないけれども、上野原からは出ないだろうと。大変ですから。上野原でもそういうことが簡単にできるシステムにしてほしいなと思うんですよ。

それと、ある程度の農業を経験していれば、担い手のほうの私のほうへ来れるという形になっているんですが、どうしても退職した方とか、そういう方になりますと、農業していないから、どうしても大学校へ行くようになってしまらしいんですよ。

○知事

野菜づくりも何もしない人が、例えば来てもらってもいいよといった場合に、ちゃんと一から教えられますか。

○参加者

大丈夫ですね。

ただ、その人にやる気があるかないかだけの問題で、ですから大学校に通ってない方は今２人来ているんですよ。土曜日、日曜日、連日で。ですけれども、きちっとその方は覚えまして、そしてある程度は談合坂のやさい村に出せるようになりましたから、大丈夫だと思うんですね。

ただ、経営的な面は、これからどんどん教えていけばいいと思うんですが・・。

○知事

それはありがたいことですね。ぜひ一つよろしくお願いしたいですね。

どのくらいの面積を今やっているんですか。

○参加者

今、１町５反です。そして研修生の方には、大体１反を与えて、コンバイン式で教えているんですけれども。

○知事

それは大変ありがたいことで、ぜひよろしくお願いします。

○司会

時間もオーバーしてしまいましたので、それでは知事のほうから本日の感想を含めまして、まとめのあいさつをいただきたいと思います。

○知事

皆さん方には本当に貴重なお話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。

改めて、上野原で野菜の栽培をしておられる方が大変ご熱心にやっていただいているということを聞いて、感銘いたしました。

販売、販路拡大対策、鳥獣被害問題、あるいは談合坂の販売、直売所の拡大の問題とか、その他いろいろな問題がありますけれども、今日のお話はよく私どもとしても参考にさせていただいて、できるだけ皆さんのご期待に応えるように、努力したいと思います。

これからも遠慮なく、何かありましたら県庁のほうにお話をいただきたいというように思います。

とりあえず、富士・東部の農務事務所がありまして、ご存じだと思いますけれども、そこに農業農村支援課普及センターがありますので、何でもいいですから、どんどん電話して、こうしろ、ああしろと言っていただければいいと思いますね。

彼らもまたそれを待っている、いわゆる普及員さんですからね。そういうことをやるのが、彼らの使命だし、生きがいでもあるわけですから、ぜひ、いろいろなことを相談したりしていただきたいと思います。

いろいろありがとうございました。

また、皆さま方のますますのご活躍をお祈りしまして、今日は終わりとさせていただきます。

本当にありがとうございました。